

第1回豊田市総合教育会議

日時：平成30年6月27日

開会 午後3時30分

○司会 第1回の豊田市総合教育会議を始める。本日は7名出席。

ここからは市長に議事の進行をお願いする。

○太田市長 **議事1 あいちトリエンナーレの開催について**

○文化振興課 (資料1の説明)

○太田市長 御意見や御質問があればお願いします。

○天野委員 豊田市には豊田市美術館という現代美術のすばらしい美術館があるが、未だに現代美術に対してハードルが高い気がしている。今回あいちトリエンナーレの開催は、豊田にとっては好機。市民にとって現代美術というもののハードルを下げ、身近なものになるとよい。また、次代を担う若い人たちへ、新しい感性や刺激を与えられるとよい。

今後の美術館での現代美術との関わり方も、トリエンナーレをきっかけに、「豊田で現代美術の新しい芽が生まれた」と言われるぐらいの事業にしてほしい。

○山本教育長 地域展開事業に手を挙げた敷島小学校の子どもたちは大変楽しみにしている。僕は豊田市の独自性を出していくべきと思っており、普及教育プログラムは、子どもたちの関わり方を早期に計画を立ててPRも行っていくことが市民参加につながると思う。

○神崎委員 瀬戸内国際芸術祭は、住民とアーティストと運営の三者が一体となって芸術祭を盛り上げた成功例。活動していく中で機運が盛り上がり、芸術祭終了後には観光客が増え、移住者も増えたと聞いている。

2016年の長者町会場で地元産、県産の木材を使った休憩施設を作り、評判

が良かったと聞いている。豊田市も同様に木材や和紙を使った作品を作り、アーティストの方にその木や和紙の良さを伝え、それを使ってもらうとよいと思う。

○藤田委員 豊田市には学校がたくさんあって子どもたちもたくさんいるが、それぞれただ展示して終わっている。せっかくのトリエンナーレの機会に、学校の枠を超えて豊田市中の子どもたちの作品が1つになるなど、そんな取組ができると自然と根づいていくのではと思う。

○佐伯委員 何回かあいちトリエンナーレに行ったことがあるが、むしろ豊田市美術館で見たことがあるようなものが多いので、豊田市美術館を会場として使うのであれば、今まで展示してきたものとあいちトリエンナーレで、どのような差別化をされていくのか。

前回の実績にあるようなベビーカーの方がツアーに参加するのはとてもいい取組と思う。例えば体の不自由な方とか外国人の方とか、いろいろな方が多くのプログラムに参加できるよう各会場で進めてもらえるとよい。

○明木委員 アーティストにもいろいろなタイプの人がいるが、子どもたちに上手にわかりやすく説明ができるようなイベントがあったらおもしろいと思う。また、せっかく本市には地元のテレビ局があるため、展示の内容や楽しみ方をわかりやすく紹介する番組があれば大きな発信になると思う。説明できる美術、考える美術、これが我々素人を引きつけるのではないかと感じる。

○太田市長 豊田市は、毎年いろいろな取組があって、様々な分野で表彰されている。今の豊田市の文化・芸術・美術・音楽、いろいろな自己評価が、余りにも低過ぎるということと、それを生かそうという文化行政が展開されない。そこに最大の問題点があると思っている。

学校教育の現場に出向いて、いろいろな形で子どもたちを刺激できるような人材は、美術に限らずいろんなジャンルで豊田市には幾らでもいると思う。

今回は、現代美術に接するチャンスとして、またはそのレガシーとして、普段

とは違うところをきちんと特徴として出せる工夫が必要。

これからは、豊田独自の、豊田独自で、豊田市の豊田市民による豊田市民のためのもので、外から来る人たちに刺激を与えるような取組を考えていく。それをやれるだけの素材を豊田市は持っていると思う。

○太田市長 **議題2 第3次豊田市生涯スポーツプラン・行動計画について**

○スポーツ課 (資料2の説明)

○太田市長 御意見や御質問などお願いします。

○山本教育長 5年程前からこの結果、数字だけじゃないとはいうものの、少し悲しく感じている。

学校のことに限って言えば、体力向上を推進するために自分の学校で入力・分析・課題抽出ができるシステムを導入した。子どもたちには、自分個人の様子と課題と目標を立てられるシートも持たせた。運動が苦手な子に対してトレーニングメニューを動画で見られるようにしたり、1校1実践もやっている。それでも上がらないのは、多分、このシステム等を学校が活用し切っていないからだと思う。これを各校がしっかり活用できるよう取り組んでいこうと考えている。

○藤田委員 コーディネーショントレーニングはどれぐらいの頻度でやると効果があるのか知りたい。

親や周りの環境によって、小さい頃から運動する子とあまりしない子と分かれていくと思うので、それをカバーできるとよい。せっかく地元のテレビ局があるので、時間帯によって子どもやお年寄りを分けたりして、一緒にやれるような環境があるとよいと思う。やはり子どもたちは物に囲まれて、遊んで走り回って自然と体力をつける幼少期が大事かと思う。

○天野委員 体力向上を教育という立場でとらえてしまうと、どうしても何か

無理があると思う。何かスポーツしましょう、体力向上しましょうということだけじゃなくて、もっと楽しくてわくわくするようなことが自分の健康づくりになるという価値観を入れていかないといけないと思う。

○神崎委員　スポーツクラブに関わっている指導員のようなリーダーシップをとる方々が、小学生に対してそのスポーツが好きになるように働きかけて、中学校になっても続けていこうという継続性の中で体力は上がってくると思う。

計画の基準値・現状値・目標値という、この表の中のいきなり全種目というのは無理であるが、小学校5年生から中学校1年生に上がるぐらいまで、または中学校3年生になるぐらいまでの間で、自らスポーツをやるような働きかけをより多くの方でやっていくということがとても大事と思う。

○佐伯委員　個人の目標のメニューを各学校でされているということは、とてもいい取組だと思うが、そもそも評価の方法に若干違和感がある。

先日受けたセミナーで感銘を受けたことは、子どもを周りと比較してはいけない、子どもの過去を見なさい。という言葉があった。この評価の基準になっている2009年の小学校5年生と、現状値の2016年の小学校5年生というのは全く違うグループであって、大ざっぱに比べることがどうなのかと思っている。個人のメニューによって、どのくらいできるようになったかを測るべきで、その伸び率を目標にしたらどうかと思う。

○山本教育長　数字のことを大分言ってしまったが、大切なことの1つは、どれだけ記録が伸びたかや、どれだけ頑張ったかだと思う。もう一つは、夢の教室のように、トップアスリートを始めとして、いろいろな人に出会う中で、学ぶことだと思う。

運動習慣の特徴について、睡眠時間、朝食、テレビ、スマホなどをきちんと時間決めて規則正しい生活している子は結果がよいとか、お父さんやお母さんと一緒に運動したりする子は結果がよいとか、そのような結果が出ている。

○太田市長　子どもが二極化しているように、大人も二極化していて、運動しない大人の子どもは運動しないし、運動する大人の子どもは運動するし、という状態がより鮮明に二極化してきているのではと思う。

豊田市の場合は全国的に見て健康寿命も平均寿命も極めて上位にいる。その調査で運動していないからといって、健康寿命との相関関係はまた別の要素がある。特に行政計画でいえば、健康づくり、スポーツ、文化、教育の分野というのは、目標は立てるが、その目標を達成するための施策と効果の相関関係が持ちにくい部分がある。

他になければ、本日もらった意見を参考に引き続き対応をお願いする。

○司会　第1回会議を終了する。

閉会　午後4時44分